

川のおい

富山県との県境に位置する南大呑地区。石動山系を源流とし、多根ダムから熊淵町・山崎町・花園町・東浜町を経て、富山湾に一本の川が流れ出ている。この川の上流では大きな岩が目立ち勇壮さを感じるが、下流に行くにつれて岩は小さくなるが、河口付近まで小石が残っているのが特徴である。このことが清流を好むアユのエサとなるコケの付着に絶好の条件となっており、昔から天然アユが多く遡上する数少ない川

の一つとなっている。アユは生まれた川のおいを頼りに、春先に海から遡上するといわれており、清く澄んで海へと流れ出ていることを物語っている。河岸では田植え上がりの頃から竿釣り、流し網が見られ、地域住民に初夏の訪れを知らせてくれる。

「名人」と川との付き合い

熊淵川で「テンカラ流し網漁」と呼ばれる独特の漁法でアユを捕る

ななおの彩り — 47

川のある暮らし

～ 熊淵川 ～

一人の名人、池岡徹さん(57)に出会った。手入れされた網を肩に担ぎ、慣れた足取りで川へと入る。ポイントを見極めて網を投げ、同時に上流から下流へ向かってアユを網の中に追い込む。逃げ場を失ったアユが網にかかると、すばやい手つきでアユを捕まえるという漁法である。多い時には、1回(約2〜3時間)で100〜120匹捕れるのだという。その数は年間約3,000匹にもなるというから驚きである。ただ、意外にも自分ではほとんど食べないのだという。商売なのかと尋ねる

とそれもまた違つと。では何のため
に捕るのか。

「ほとんど全部知り合いに配つと
るんや。この川でアユを捕ることが
楽しいし、この川で捕れたアユを毎
年楽しみにしてくれてる知り合
いがたくさんおるから、続けとるだ
けや。」と、笑顔で話してくれた。熊
淵川のファンは少なくなさそうだ。



②すばやく走り追い込む



①アユめがけて網を投げる



④網からアユを外す



③アユを捕まえる

暴れ川

今でこそ静かに流れる熊淵川だが、
その昔からたびたび住民を苦し
ませてきた。「あんな暴れ川はない。
」そう声をそろえるのは東浜町に住
む濱田隆夫さん(82)と花園町の山

口力雄さん(75)。「昔は大雨のた
びにあっちへ行
ったり、こっ
ちへ行ったりと、
まあ、大変な
川やった。中
でも昭和45年
の大水害の時
は、畑も田んぼも
一面海の様
になり、橋は
流されるし、水が引いた後も本
大変わつた。今は、河川改修を
あんなことにはならなくなつた
けどなあ。」かつてのそんな話
を聞き、この川と長く付き合
つてきた地域住民の姿が目につ
かぶようであった。昔はもつと
きれいだつたんでしょねと尋ね
ると、意外な答えが返つてきた。
「いや、今のほうがずっときれ
いになった。昔は生活排水が垂
れ流しで、この時期はスイカの
皮やら、野菜のクズやらで汚な
かつた。下水道が整備されて、
川はきれいになつたもんなや。」



昭和45年9月16日の水害(旧南大吞農協倉庫前)

川とのふれあい

熊淵川を活かした独自の取り組
みもされている。夏休みに入つた最
初の日曜日に、南大吞公民館主催
で「アユに親しむ」と銘打つた行事
が恒例となつている。昔は学校
から帰

ると、こぞつて川遊びする子ども
たちの姿がしばしば見られたが、
今ではその光景もほとんど見
られないという。そんな現代の
子どもたちに、地域の自然と
ふれあい、自然を愛する心を
養つてもらふために、地元
の保育園児や小学校児童の親
子が多く参加している。はじめ
は水辺で水遊びするだけの子
どもたちが、足まで、腰までと
次第に水につかつていく。そ
うのうち誰からともなく泳ぎ
出し、川の中は子どもたちの
楽しそうな笑顔でいっぱい
になる。



熊淵川で水と親しむ子どもたち

ふるさとを知り、活かす

昔も今も地域住民に愛され
続けている熊淵川。この地域の
自然を活かした活動を行う「大
吞グリーンツーリズム推進協
議会」では、平成14

年から地域住民が主体となつて、
熊淵川に代表される「手つかず
の川・海・山」を活かしたまち
づくりに取り組んでいる。地
域の良さを知らせてもらうこ
とで交流人口を増やし、地域
を活性化させようという試
みであり、市内外を問わず訪
れる人は多い。「地域の良さを
他の人に知ってもらふため
には、まず地域住民自らが地
域の良さを理解しなければな
らないんです。」協議会の事
務局を務める池岡直樹さん(45)
はそう話す。

熊淵川に限らず、豊かな自然に
囲まれた七尾。四季折々の風景
や食材に恵まれた豊かなこの
地に誇りを持ち、それをどう活
かすか。熊淵川から海へと下
り、再びふるさとの川へと戻
つてくるアユ。清らかな流れ
の中を優雅に泳ぎまわる姿を
眺めてみると、忘れかけて
いたふるさと七尾を愛する
心「を思い出させてくれ
る。」



参考資料:南大吞のれきし